

発刊に寄せて

宮城県特別支援教育研究会
肢体不自由病弱虚弱教育専門部
部長 松見早苗
(宮城県立西多賀支援学校長)

このたび「肢病専門部手引き（第9集）～特別支援学級の一年間の流れ～」を刊行することができました。

平成16年3月に「[第8集]肢体不自由・病虚弱児への理解」が発刊されてから、実に13年が経過しております。時代とともに障害の程度あるいは病種病類が変化し、一方で医学の著しい進歩があることから、肢体不自由・病弱虚弱児の指導に当たる我々教員は、常に障害や病気に対する理解が必要不可欠でした。そのようなことから、第8集までの手引きは、多くの肢体不自由・病弱虚弱児の指導に携わる教員の指針として、大変有効に活用されてきました。しかしながら、急速なインターネット等の普及に伴い、病気についての解説が中心だった手引きは必要ないのではないかとの意見が出され、今に至りました。

この13年の間に、特殊教育から特別支援教育と名称も変更され、特別支援教育のニーズがますます高まってきております。本県の支援学校は、知的障害の児童生徒数が増加し、仙台圏域では校舎の狭隘化が課題となっております。肢体不自由や病弱学校は、医療の進歩、少子化や、ノーマライゼーションの考え方などから、児童生徒数は横ばいか減少傾向にあります。就学指導の在り方も大きく転換し、今後は地域の学校で学ぶ子供たちが増えてくると予想されます。また、本専門部の会員の先生方からは、小中学校において、肢体不自由や病弱虚弱学級を担任する先生は、初めての先生が多かったり、障害種も様々で、どんなことをしたらよいのか悩んでいるというご意見をいただきました。

本手引きは、以上のことを踏まえながら、より実践的に先生方が現場で使えるものと考えました。支援学校の先生方はもちろんのことですが、各小中学校の支援学級で初めて、肢体不自由や病弱のお子さんを担任される先生方が、4月からすぐに役立つ1年間の流れがわかるようにと作成してあります。特に先輩からのアドバイスは大変参考になるかと思えます。

ぜひこの手引きをお手元においていただき活用していただければ幸いです。

最後に、本手引きを刊行するにあたり、執筆・監修にあられました船岡支援学校の今野先生をはじめ、編集委員の先生方、実践指導事例を紹介いただきました先生方に、心からお礼と感謝を申し上げます。

平成29年6月